

【様式1】 令和2年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

| | | | | | | |
|--|--|---|------|-----------|----|-----|
| 市町村名 | 下呂市 | | 学校名 | 下呂市立小坂中学校 | | |
| 校長名 | 前田芳隆 | | 対象学年 | 全校 | 人数 | 50人 |
| 項目 該当する項目に ○をつける | ○ | ① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践 | | | | |
| | ○ | ② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践 | | | | |
| | ○ | ③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践 | | | | |
| 活動のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針「ふるさとを誇り、ひとりだちできる生徒」の育成と、生徒会スローガン「自ら」に基づき、生徒主体に積極的な地域貢献活動を行うことを通し、学校生活で身につけた力を地域で発揮し確かにすると共に「地域を元気にする小坂中」を目指す。 ・活動目的で終わらないように、活動後の生徒の変容や自主的な継続を見届け、常に「アウトカム評価」を継続する。道徳や教科指導等との関連を図り、全校体制で指導する。 ・つけたい3つの力を地域と共有し、地域人材の積極的な活用を図る。CS(小坂小中)の仕組みを生かして、小学校からの取り組みを継続し9年間の見通しある指導を重ねる。 | | | | | |
| <p><活動の特色></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月下旬「地域盛りあげ隊(コロナに負けるな。地域を元気に!)」をテーマに、通学する小坂小学校の児童らに向けたあいさつ活動を行った。この活動は、生徒会が「私たちの力で、新型コロナウイルスで世間が沈んでいるこの時期に、地域を盛り上げたい」と企画し、3年生の有志が参加した。 ・「スマイル小坂プラン(花を届ける活動)」生徒会がリードし、全校生徒が独居老人宅77軒に自分達の育てた鉢植えと励ましや自分の近況を綴った手紙を添えて届け、関わりをもった。暑中見舞いや年賀状を届け、関わりを継続する。12月にも秋に育てた鉢植えを持って訪問し、年間を通じてつながった。 ・6月に計画していた3年生対象の御嶽登山が新型コロナウイルスの影響で中止になっていたが、コミュニティスクール(CS)の学校運営協議会が登山を提案し、改めて有志の参加を募って夏休みに登ることとなった。3年生6人と保護者や教職員ら計13名が参加した。 ・本校生徒7名が町内の観光スポットで、外国人観光客を英語でガイドした。生徒らは、滝めぐりのルートを英語で説明したパンフレットを用意。この内容を企画した同町に住む全国通訳案内士の方と一緒に、夏から準備を続けてきた。当日は外国人13名に、パワースポットとされる地点や、マイナスイオンが多い滝周辺などの魅力を英語で紹介した。 ・2年生生徒が、美術の授業でふるさとの自然などを描いたポスターのカラーコピーデータを、同町振興事務所に届けた。生徒は「市職員や回覧板で回して、地域の方が名刺のデザインに入れていただけたらうれしい」「地域のことが大好きな自分たちの気持ちが名刺のデザインを通じて伝われば」という思いを伝えた。また、さびれたJR小坂駅を元気にしたいと「小坂駅友の会」と関わりをもち、原画はJR小坂駅に展示をした。 ・「小さな親切」運動岐阜県本部より、生徒会が「小さな親切」実行章を受章した。全校集会で表彰を行い、スマイル小坂プランで花を届ける活動や生徒会主催の地域貢献活動が評価されたことを全校生徒に伝えた。 ・12月に「ふるさと座談会」を開催し、全校生徒と地域の方々と関わる。「自ら地域に関わるために～ふるさとへの誇り作り～」をテーマに、コロナ禍でも小坂中学生の生徒を思い、関わってくださった地域の方の思いを聞く。そして自分の言葉で関わり合いから感じたことや今後地域にどう貢献していくのか伝えていく。地域の教育力を再生するという学校の立ち位置からCSの動きを作り出している。(町内組織の再編) <p><生徒の変容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の生徒の活躍が大変良い評価を受け、生徒は意気に感じ活動を継続させようとしている。コロナ禍で人と関わりにくい困難な状況の中でも、地域を元気にしたいと生徒が考え工夫して、生徒主体の地域貢献活動ができた。地域からの感謝の声が届き、地域に貢献しているという満足感や自己有用感が高まった。日常で生きる確かな力や心根が育ちつつある。 ・学びを地域で発揮し、確かな力になってきている。地域連携でつけたい3つの力(将来のAI時代に必要とされる力)、(1)直接人と関わる力、(2)心を感じる温かさ、(3)既存にないものを創り出し行動する力、の育成が図れた。 ・花を届ける活動では地区の民生委員や社協の活性化等、地域を巻き込んだ動きができた。小坂地域の関係者や商工会関係者などの地域づくりの意識が高まっている。中学生の活動や目的意識が地域の活動や意識も変えようとしている。今年度は新型コロナウイルス感染対策で、予定していた活動が十分にできなかったが、来年度は、小坂町内の子どもに関わる組織を再編し、より有効にできるよう動いている。 | | | | | | |